

小学校と戦争

岡本浩人（当時、加東郡社町在住 10歳頃の話）

小学校には、校門を入ると二宮金次郎の立像があり、正面に奉安殿があって、奉安殿で敬礼してから入る時代だった。どこの小学校でも奉安殿で天皇陛下を祀っていた。

小学校五、六年生の頃、授業の一環として駆り出されて、大門駅（現・青野ヶ原駅）まで木材を運ばせられた。社小学校は加東郡で一番の規模の小学校で、高等科が三年まであり、高等三年には福田や東条などからも通ってきていると聞いていた。その高等科の生徒が先に山に入って木を伐り出して、丸太束にしたものを、車力（荷車）に積んでもらい、駅へと運んだ。一台の車に五人ほどずつ割り当てられて、高等一年生か二年生が前で引いて舵を持ったが、坂の時には重たくて大変だった記憶がある。木材が何に使われたのか、軍隊用に使ったのか、神戸や大阪に運んだのかまではわからないが、そのような作業を時々させられていた。

授業中に、廊下にみんなで座って、藁を叩いたもので藁草履を作らされた。一度に二足ずつ作らされて、何回か作ったため、上手になっていた。北の滝野の山と下の小学校とで、手旗信号の訓練もさせられた。弁当の時間にはモールス信号を憶えさせられたが、憶えられなかった場合には、大きな地図を掲出する檣の棒、先に金属のついた棒で頭を叩かれて、血を出している生徒もいた。パンチぐらいのことは当たり前で、「一班並べ」と言われて、バンバンと叩かれたりしていた。六年生の時の担任から、「お前らは海岸の松になれ、風雪に耐えて、節くれだっても松は枯れんぞ」と何遍も聞かされたことは今も忘れない。

算数のできるやつは中等学校（旧制五年制の工業学校）へ行け、将来の日本は工業しかないぞ、と言われた記憶がある。そうか、と思ったが、その後、勉強する時間は少なく、学校では教育勅語や五箇条の御誓文まで暗記させられていた。暗記できない人のいる班は、前へ呼ばれて叩かれていた。自分たちの学校だけがさせられていたわけではないと思う。

学校のグラウンドは、十文字に通路を残して畑にできてしまっていた。赤土のような畑では困るということで、千鳥川に行って取った砂を「こも」や「もっこ」で運び、土に混ぜてサツマイモを作っていた。サツマイモが一番簡単で、出来がよかったのだと思う。グラウンドに残された通路では、連合婦

人会の女性らが鉢巻を締めてモンペをはき、「鬼畜米英」「ルーズベルト」「チャーチル」という紙を貼った人物大の藁人形に竹やりで突進するという訓練をしていた。郡の人々だったと思うが三百人程も集まって、号令にそって元気に通路を走り回っていた。

私たちは、少年航空隊に憧れていたもので、「どこそこの兄ちゃん、志願兵で行ったらしいぞ」と言っていた。佐保神社の息子さんが、江田島の海軍兵学校に入って、町の若い者はみな憧れていた。海軍兵学校の格好がまたよくて、真っ白の上下に金ボタン、金モールの短剣を装着して、さっそうと帰ってきて町を歩いているので、その後をついて歩いていた。予科練は、体が達者で、少し頭がよければ入ることができるが、海軍兵学校には簡単に入学できない。だからみな憧れて、海軍兵学校はすごいと思っていたので、広島江田島と聞くと、今でも感動を覚えるものがある。加東郡からもあまり多くは行っていない。ほんの二～三人だったと思う。

その佐保神社で、社町から出征する人に千人針を渡し、「万歳、万歳」で送った。父が出征した時も、佐保神社で「万歳、万歳」と送った。